直江兼続のコント

佐溝貴史

［登場人物］
直江兼続
家臣A、B、C

［舞台］
舞台にはカミ（舞台に向かって右手)、シモ（舞台に向かって左手）２つのはけ口（出入口）がある。
２つのはけ口は舞台裏でつながっており、カミからはけて、シモから登場することができる（逆も可)。

［ルール］
この作品は、以下のルールに従って演ずる。
①シモからはけて（退出して)、カミから登場すると、衣装が一枚脱げる。
②逆に、カミからはけて、シモから登場すると、衣装を一枚着ている。
③それ以外の出入りでは、衣装に変化はなし。

［衣装］
殿は、甲冑に身を包んでいる。家臣は、袴姿。

明転。舞台上には直江兼続（以下、殿）がいる

殿　　わしの名は直江兼続。戦国武将である。このコントは、このわし、直江兼続にかんするコントである。しかして、まずわしについて詳しく知っていただこう。こちらを見ろ。

映像が流れる

殿　　直江兼続。このページに関する議論があります。さて、これとは関係ないが――
C　　兼続様！
殿　　む！　それでははじまりはじまり～

明転

C　　兼続様ー！　出陣のご命令を！
殿　　うむ！　出陣じゃ！　鎧をもて！
A,B,C　　は！
殿　　（気合が入り、ぶつぶつ言っている）

A,B,C シモからはけて、カミから鎧を持ってくる。A,B,C、一枚脱いでいる。

殿　　なぜ脱いでおる。

A　　は！　鎧はこちらにござりまする。
B　　お召しくださりませ！
殿　　会話がかみ合わぬ…。まあよい！　着させい！
A,B,C　　は！
C　　兜を（兜を差し出す）
殿　　うむ。
A　　は！　兜のここ(「愛」の字の額の部分の飾り）を忘れておった！
殿　　肝心要の部分であろう！　はよう持ってまいれ！
A　　は！（シモからはける）
B　　（シモからはけながら）愛はどこじゃー！　愛を探せー！
殿　　うまいこといいおって…まったく、どうやったらあの部分が取れるのじゃ。
C　　あの者たちがフリスビー代わりにしてあそんでおったのでござりまする。愛をもてあそんだのでござりまする。
殿　　なんじゃと！！　（怒る）

A、B シモからはけて、カミから登場。もう一枚脱いでいる。
直江兼続の「愛」のように「変」の文字

A,B　　持ってまいりました。
殿　　おぬし達（怒ろうとする）――なぜじゃ。
A　　は。
殿　　二点聞きたいことがある。
B　　は。
殿　　なぜ脱いでおる。
A　　次の質問は。
殿　　なぜ無視する。…まあよい、次は、なんじゃ、この変は。なぜ変人のアピールをせねばならぬ。
A　　かぶってみるでござる。
B　　かぶってみるでござる。
殿　　むむう。
C　　かぶれ！
殿　　うお！？

殿、かぶってみる。

B　　へんでござる。
A　　へんでござる。
C　　へんでござる。
殿　　わかっておる！　馬鹿にするでない！
A,B,C　　は。
AB　　とってまいりまする。（シモからはける）
殿　　（ぶつぶつと）まったく、この忙しいときになにをふざけておるのだ…

AB シモにはけて文字をとってくる。

A　　（カミから登場）持ってまいりましたぞー。
殿　　また脱いでおる！
B　　（カミから登場）
殿　　…おぬしも！　…おぬしたち、脱ぎたいのか。
AB　　いえ。
殿　　出て行って、戻ってくると、脱ぐのか。
AB　　は。
殿　　そういう理解で、よいか。
AB　　は。こちらにござります（文字を殿に渡す)。

「恋」の文字。つけてみる。

殿　　乙女か！　おしいわ！
AB　　は！（カミにはける）
殿　　まったく。。。
B　　（カミハケ口から）いいツッコミでござりましたぞ。
　　乙女か！　よいツッコミでござりましたぞ。乙女か！
殿　　やめい！　恥ずかしいわ。
　　またあいつは変なものを持ってくるのではあるまい
　　――は！　あやつらあれ以上はけては――

A、シモから文字を持ってくる。一枚着ている。

殿　　着ておる。(B もシモから出てくる）…おぬしも。…着たかったのか。
AB　　いえ。
殿　　…逆回りだから、着るのか。
AB　　は。
殿　　そういう理解で、よいか。
AB　　は。こちらにござりまする（文字を殿に渡す)。

「福原」の文字。

殿　　愛だがちがう！　やり直し！
BC　　は！

BC, シモからはける。C はカミから戻ってきて、

C　　持ってまいりました！

C は「宮里」の文字を出そうとする

殿　　だからちがう！　しかも宮里は藍の字が違う！
　　ちゃんとしたものはないのか。

B、カミから戻ってくる

B　　ありましたぞー！

「10 点」

殿　　みんなぽんぽん脱ぎおって…
　　（つけてみる）雑魚か！
A,B,C　　は！
殿　　は！　ではない！　…失礼じゃ！
　　もうよい！　わしが自分で探す！　おぬし達はちょっと待っておれ！

殿はシモにはけ、カミから戻ってくる「受」の字をつけている 。袴が脱げている。

殿　　あったぞー！
B　　殿！しかし下半身がおろそかになっておりまする！
A　　しかも字が間違っておりまする！
C　　それではホモでござりまする！
殿　　そんなことはよい！
　　出陣じゃ！　出陣の合図を！

（ほら貝の音が流れる）
殿、走り出す。シモからはける。

殿　　出陣じゃー！！
A　　殿！　お待ちくださりませ！
C　　殿！　衣装を！
B　　殿！

ABC は追うが、B だけ残る。

B　　このまま行ってはわしはそろそろ危険なことになるでござる。…ああっ！！（転ぶ）

A と C、シモからはけ、カミから出てくる。一枚脱いでいる。

A　　殿！　まだ準備が整っておりませぬ。
C　　無駄に我々だけ脱いでしまった。
　　しかし（B に）おぬし、ずるをしたな。
B　　なんのことじゃ。
C　　まあよい、次やったら力づくで脱がすでござる。
B　　力づくって・・。
C　　よい殿はどこに行った？！

殿の声　　（シモから）出陣じゃー。

A　　あっちだ！（シモへ走る）
ABC　　おお！

といいつつ、BC はカミからはける

BC　　おお！
A　　うそつきー！！！　俺だけ裸になるところだったじゃないかー！！（カミへはける）

カミからはけ、シモから戻ってくる。一枚着ている　B は謎の衣装を着ている。

B　　一枚余裕ができたでござる。
C　　よかったでござる。
A　　しかしおぬしは何になろうとしているのでござる。
B　　（適宜コメントする）
C　　・・・変だぞ。
A　　しかし肝心の殿が見つからぬ。
B　　殿―

といっていると、下半身裸に近い殿がカミから出てくる（殿は、下の衣装から脱いでいく）。

殿　　出陣じゃ！　ぼぉわおわおー。
A　　殿！　自分でほら貝をやっている場合ではござりませぬ！
B　　おまちくださりませ！
C　　それでは変態でござる！！

殿、A シモからはける

B　　なかなかつかまらぬ、、、
C　　しかし殿も次出てくるころには洒落にならないことになっている可能性がござる。
B　　こちらから出てきてくれればよいのだが、、、
C　　なぜか下からばかり脱ぐので油断できんでござる。
殿の声　　（カミから）出陣じゃー！
B　　いかん！　やはりこちらからじゃ！（止めに行く）
C　　殿ー！！　なりませぬ！　なりませぬ！　ふんどしははいてくださりませ！
B　　その恰好は完全にアウトでござる！
殿　　なんじゃー。

B、C カミからはけて、シモから殿、B、C が出てくる

B　　なんとかセーフでござる。
C　　（B に）だからおぬしは何になりたいのだ。殿、お気を付けくださりませ。

Aがカミから戻ってくる

A　　殿がおらぬ・・・
C　　おぬし・・・
A　　おるでござる・・・
B　　無駄に脱いだだけでござる・・・
殿　　・・・出陣じゃあー！！
A,B　　殿！！！

殿、走り出す。シモからはける。家来A,Bも追う

B　　（Aに）おぬしは逆から行け！　これ以上はちょっとやばい！（シモからはける）
A　　かたじけない！（カミからはける）
殿の声　　（舞台裏から）出陣じゃー。
BCの声　　（舞台裏から）殿！　下から脱いではいけませぬ！

殿、B、Cはカミから登場。A。はシモから登場。
A、余計なものを身に着けている（観光地とかにあるあの顔を突っ込むやつか？）

B　　はさみうちでござる。
A　　挟み撃ちでござるぞ。
C　　なぜそんなものを。
A　　つい。
殿　　出陣じゃー。（シモからはける）
ABC　　殿！（シモからはける）

全員カミから出てくる。みなもう一枚脱いでいる。

殿　　寒い寒い！（シモにハケながら）
A　　殿！　寒いならなぜ！　いけませぬ！
　　我々の方が薄着でございます！
　　我々が先に裸になってしまいまする！（シモにはけながら）
B　　褌一丁でござりまする！　最後の砦でござりまする！（シモにはけながら）
C　　それでもまだまだ続くでござる！（シモにはけながら）

もう一周する。実はもう一枚着ていた。

A　　もう一枚ござりまする！　ほんとにこれで最後でござりまする！（シモにはけながら）
B　　ほんとに最後でござりまする！（シモにはけながら）
C　　ピンチ！（シモにはけながら）

舞台裏で殿を捕まえる。

B　　（声だけ）捕まえた！

A,B が、殿を連れて戻ってくる。

A　　危なかったでござる！　事故が起きるところだってござ――殿ー！！！！！

殿が脱走。シモにはける。

B　　暗転でござる！　暗転でござる！　照明を消すでござる！

殿がカミから出てくるか来ないかのところで暗転
ほら貝の音が鳴り響く